

SHIRAKOBATO

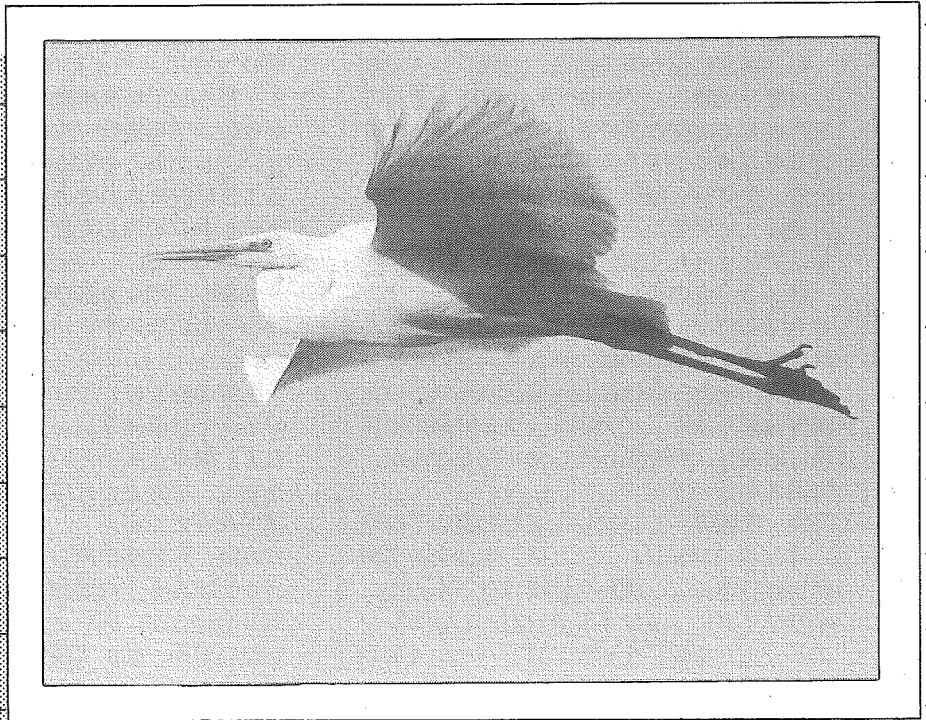
しらこぼと



1992. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 102

日本野鳥の会 埼玉県支部

野鳥しゃしん考

ばあと・ふあいぶ
ドアップビデオについてのしったかぶり

海老原美夫（浦和市）

本庄市の町田好一郎幹事が、望遠鏡の接眼レンズに8mmビデオをつけるだけで、手軽にドアップビデオが写せるという衝撃的な事実を発見したのが昨年のこと。それ以来、支部内でひそかにM式ビデオウィルスが蔓延し始め、遂に私も感染してしまった。ついでだから、ほかの人にもうつしてしまえと、ビデオカメラをいじり始めてまだ1年にも満たないのに、大胆にも書いてしまうのだ。だめといっても書いてしまうのだ。

なぜ写るのか

基本形は、町田幹事が本年2月号の『地鳴きコーナー』に発表したとおり。

え、うそうそ、ホントーなんて、馬鹿な女学生みたいに叫びながらも、かしこいおじさんは考えた。なぜこれで写っちゃうのだろう。

じつはこれは間接撮影といって、顕微鏡や天体望遠鏡の初歩的撮影方法として、昔からおなじみの方法。今のような優秀な撮影用望遠レンズが手に入るようになる前は、そういう方法で野鳥も写真撮影していたものだと、ずっとずっと先輩の某氏は、日の当たる縁側で、懐かしそうに昔話をしておったわい。

野鳥観察に使う望遠鏡は、対物レンズで結んだ像を接眼レンズで拡大して見る。そしてそのままでは逆さまに見えるので、間にプリズムを入れて上下を入れ替え、正立にさせている。ケプラー型望遠鏡というわけで、この構造は、ビデオ用高倍率テレコンバージョンレンズとまったく同じだ。

だから、今の少しの光量でも写るビデオカメラであれば、望遠鏡の接眼レンズにくっつけただけでも写るのは、当たり前といえれば当たり前。ただ、今はほとんど忘れられていた間接撮影方法を、ビデオカメラと野鳥用望遠鏡に応用し、再発見してしまっただころが、町田さんはエライ！

市販のテレコンレンズとの違い

コンバージョンレンズとは、本体レンズの前にねじ込んで、画角を変換させるもので、よりワイドにするワイドコンバージョンレンズと、より望遠にするテレコンバージョンレンズがある。

この場合は、テレコンの方の問題になるわけだが、いろいろな種類のテレコンが市販されている。それらのテレコンを使う場合と、望遠鏡を使う場合は、どう違うのだろう。

まず倍率が違う。

中には12倍57,000円という反射式テレコン

もあるが、我が望遠鏡さんは、20倍が普通だ。私が使っているビデオカメラ、ソニーCCD-TR705は8倍ズームレンズがついていて、望遠いっぱいになると、普通の写真用カメラに換算して、約350mmに相当する。ということは、単純計算では、20倍望遠鏡の像を撮影すると、 $350\text{mm} \times 20\text{倍} = \text{ナナナ}$ なんと、写真カメラの7,000mmに相当するということになってしまう。キャノンのHi8カメラに、写真用超望遠レンズが直結できるものがあるが、この倍率にはかなわない。

次に、画質が違う。

残念ながら市販のテレコンは、対物レンズがあまり大きくない。大きさに限りのある対物レンズでとらえた像を拡大するわけだから、どうしても高画質を期待するわけにはいかない。望遠鏡は、それより対物レンズが大きい。しかも、そもそもそれを通して物を見るように設計されているのだから、当然、市販テレコンを通して見る像より優れている。

欠点もある。

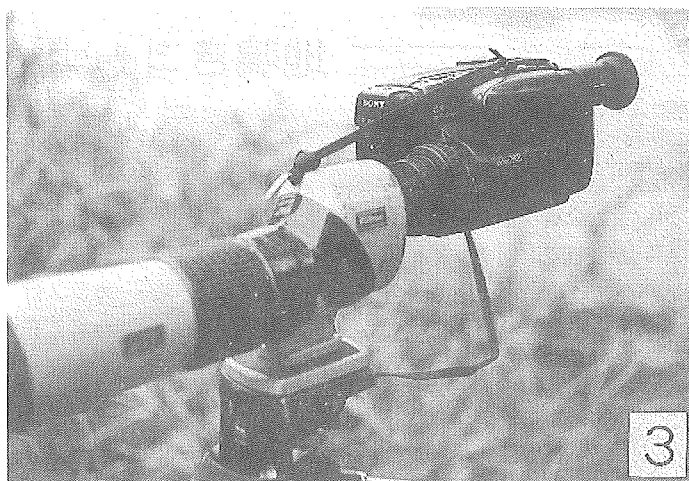
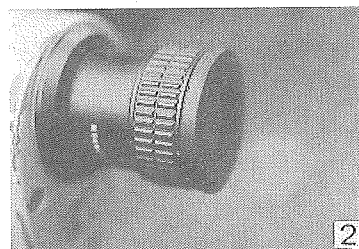
まず、ビデオカメラとつなぐような構造にはなっていないから、そのための工夫が必要だ。

画質の点では、テレコンよりはいいが、そのままでは直結型レンズにはかなわない。そこで、倍率が高いという有利な点をいかしたままで、できるだけ良い画質を得る工夫も必要になってくる。

写真撮影用レンズの応用

ビデオカメラの問題では、8mmカメラよりHi8のほうが、VHSよりS-VHSのほうが画質が良いとか、CCD（映像素子）が1個のものより3個のものの方が高画質だとか、メーカーによっても、値段によってもいろいろあるけれども、そのへんのところは専門雑誌などもたくさん出ているのでそちらにお任せするとして、こちらはあくまでも光学系の話だけをする。

望遠鏡による撮影ができることを確認した



ところで、ふと見ると、長年連れ添った写真撮影用レンズ、ニコンF3.5-400mmが、私のことも忘れないでと、寂しそうな横顔を見せている。

そうだ、私には、このかわいいヤツがいたのだ。これに望遠鏡アダプターをつければ、普通の望遠鏡よりずっと良い映像が得られるはずだ。

前から私は撮影用レンズに望遠鏡アダプターをつけて、観察に利用していた。しかも、市販のアダプターの接眼レンズは小さくて倍率も高すぎるので、ニコンフィールドスコープの20倍用接眼レンズと手作りで交換して使っている。

やって見たら、十分に満足できる画質だった。私がウイルスに感染してしまったのは、それ以来なのだ。

ノウハウいくつか

【望遠レンズとビデオカメラの接続】 いちばん簡単な、ニコンフィールドスコープと、ソニーTR705 との接続方法を紹介します。

フィールドスコープの適当な位置に、適当な金具をしっかりと取りつける（写真1）。フィールドスコープの接眼レンズの折り返しゴムを適当に切り取る（写真2）。準備はこれだけ。あとはビデオカメラのストラップを細い丈夫なものにかえ、適当な位置に結び目を作り、金具に引っ掛ける（写真3）。

ストラップの結び目の位置を細かく調節すれば、これで固定できてしまう。慣れないうちはカメラが落下する危険があるが、その際の損害については当局は一切関知しないのでご注意を。

機材によってはそれなりの工夫も必要だろうし、三脚メーカーから売り出されているブ

レートの上にレンズとカメラを取りつけて高さを調整する方法などもある。あれこれやってみようではないか。

【鳥を画面にとらえる方法】 かなりの高倍率になるので、眼で見えている鳥を画面の中にとらえるのが一苦勞。ビデオの方を一度ワイドに引いて、ファインダー内に望遠鏡の視野全部を写して鳥を探し、見つかったところでテレいっぱいにして、撮影ボタンをオン。

【ケラレを取る方法】 いざファインダーをのぞいて撮影しようとする、画面の一部が黒く影になっていることがある。明るいところでよく起きる。難しい理屈は分からないけれども、これはカメラ内の絞りによるケラレだから、レンズで絞り込めれば絞り込む、あるいはカメラのシャッター速度を上げたり、明るさ設定をマニュアルにして明るくすれば、きれいに取れる。

【そのほかいろいろ細かいことは】 三脚の雲台をビデオ用のものにしたほうが良いとか、マイクは狭指向性のものを使ったほうが良いとか、いろいろあるけれども、毎月袋づめの会の後に開かれる写真クラブ定例会では、おたがいの映像を見ながら、技術的超極秘情報も飛びかっている。誰でも参加できる貴重な機会だ。

困っています

画質の面では、業務用3 CCDのカメラにはかなわないし、プリントでは普通の写真フィルムの性能にはとうてい追いつけない。

それでも、遠くから、あまり苦勞しないで一応満足できる映像が撮れるし、ともかく動くのでおもしろい。現像しないで即見られ、音も入って記録性抜群。困ってしまった。もっともっと重症になってしまいそう。

シェイクスピアとイワツバメ

松井昭吾 (大宮市)

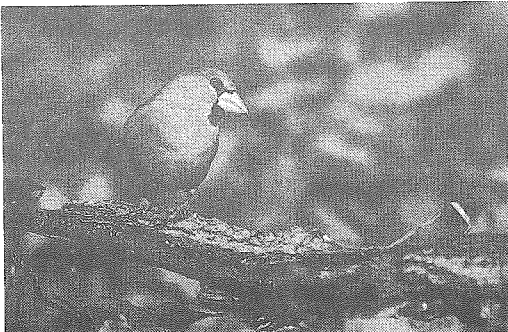
昔々若かりしころ読んだシェイクスピアの作品の中で、何か印象的な場面にトリが出ていたことを、バードウォッチャーとしてかなりトリにのめり込んでから、ふと思い出しました。

休日はほとんど野外に出してしまうので、調べる時間もなく、長いことかかり、やっとのことでそのトリと、情景をつきとめました。

あの有名な四大悲劇のひとつ、マクベスでした。ダンカン王は、そこで自分が殺されることも知らず、腹心の部下マクベスの城を訪問しますと、城の周辺をイワツバメが飛びまわっています。「イワツバメのおおところは住み良いところだ」と誉めます。

日本語では「つばくろ」となっているものと「イワツバメ」となっているものがあり、果たしてシェイクスピアはどんな言葉を使ったのかと、原書を調べてみると、“Martlet”つまり「イワツバメ」の“House Martin”を使っており、「ただツバメ」ではないことがわかりました。

さらに興味深いことには、ダンカン王の死を予知したのか、「カラスがしゃがれ声をして王の入城を待っている」としています。このカラスはどんなカラスかと調べてみますと、“Raven”（ワタリガラス）でした。現在のワタリガラスの分布図でも、確かにスコットランドでは留鳥とされていますが、シェイクスピアの時代にも、ごく普通にいたのでし



シメ (登坂久雄)

よう。

450年もの昔、日本では信長や秀吉の時代に数多くの名作を残したシェイクスピア(1564-1616)も、現代の私たちと同じように、カラスは不吉なもの、ツバメは良いものという考えをもっていたようで、あの偉大な文豪も、何か少しは身近に感じられませんか？

これこそバードウォッチャーのメリットでしょう。

シラコバト

村上修三 (吉川町)

2年半前、現在地に越してきました。私の持っている古い地図によると、吉川町の隣の越谷市大沢付近に「シラコバト生息地」とありました。吉川に行ったら、ぜひこの生息地でシラコバトに会いたいものだと思っていました。

こちらに来て1ヶ月後の土曜日、早速地図を頼りに出かけました。しかし、地図の示す場所はすでに宅地化され、近くのコンビニエンスストアで尋ねても、首をかしげるばかりでした。

がっかりして帰る途中、中川沿いの住宅の青い手すりに、白っぽい鳥が見えました。ハトらしい。ドバトではない。キジバトでもない。シラコバトだ。大変感激しました。

そのうちに私は毎日のようにシラコバトに会うことができるようになりました。こちらでは実にポピュラーな鳥なんですね。

いとしのエゾビタキ、その後

中村 治 (上福岡市)

去る9月27日、狭山市の稲荷山公園で、無事エゾビタキを見ることができました。したがって、浦和のTさんはじめその他の皆様、今後エゾビタキネタで私をイジメようとしても一切ムダです。あしからず。

しかし、コサメビタキやサメビタキを見てから6年もたっているのだから、やはり相性が悪いのかなあ。

トビの群れ

森 義雄 (深谷市)

「私はそんなに老けこんでません」と女房に同行拒否され、ひとりて札所めぐりをしています。先日、坂東結願所の安房館山、那古寺に出かけました。

内房線の車窓から数羽のトビが悠然と飛んでいるのが見え、訪ねたお寺でも同様です。しかも目の前、肉眼で良く見えるところまで降りてくれて、サービス満点でした。

これまで探鳥会で、ベテランの方に「上空にいるのがトビです」と教えられても、「なるほどな」程度の認識でしたが、今回は双眼鏡などまったく不要で、この目でしかと見、あらためてその大きさと、ゆうよう迫らぬ姿に、びっくりしました。

サギのねぐら

長島岩雄 (鴻巣市)

夏の終わりころから、県営吉見総合運動公園(比企郡吉見町)にサギのねぐらができはじめました。

日没前30分ころから、1羽、2羽と集まっ

て来て、日没ころには30羽位の集団でピークに達します。その後も数羽のサギが、夕陽の残光に輝きながら、キラキラと舞い戻り、その光景には感嘆させられます。それも日没後20分くらいで終わります。

雑木に羽を休ませながら、鳴き声を上げ、しばらく落ちつきません。互いに一日の収穫を語り合っているようです。

その光景を楽しく興味を持って観察しているのは、私ばかりではないようですが、ある日突然、このねぐらの周りの茅やガマが刈られてしまいました。茅やガマの中にいたカモやサギが居場所を失ってしまったばかりではなく、サギのねぐらも100mぐらい離れた雑木林に移動してしまいました。

これはこれでやむを得ないと思っていましたところ、またまた新しいねぐらの周りの茅を刈ってしまいました。100羽のサギが居場所をなくしてしまう危険がせまっています。

広々とした公園の一角を、サギやバン、ゴイサギたちの場としておくことはできないのでしょうか。

白頭鷺の英名講座 第3回

ハシビロガモ Shoveller

今月も引き続いて大にくちばしにこだわります。今月の登場は、誰が見ても一目瞭然、しかも英名も和名も見事に一致しています。

それは、シビヒロガモ(Shoveller)です。漢字を当てると「嘴広鴨」となり、英名のShovellerとは、“シャベルの形をしたもの”または“シャベルを使うもの”といった意味で、くちばしをシャベルと見立て、そのシャベルで水中の餌をかき集めます。

採餌方法はじつにうまく、このシャベルを最大限に活用しているのです。まず、このシャベルで泥ごとバクッと口に入れ、よく発達した櫛状の歯で、ヒゲクジラの様にこして、水生昆虫や小型の甲殻類の幼虫を、実に上手に採食するのです。

カモ類のくちばしを真上から見る機会は滅多にありませんが、ハシビロガモのくちばしを真上から見ると、基部から放射状に先端に

向かって広がっており、最も広いところでは、基部の約2倍もあり、頭の幅よりもやや広いくらいあります。

また、横から口を開いたところを見ると、まさに小型ヒゲクジラで、濾過用の櫛状の歯がよく見えます。

アメリカでは、このハシビロガモにいろいろなニックネームがあります。そのまま並べますが、いずれもうまくくちばしの特徴をとらえています。

- Spoony — スプーンちゃん
- Spoon-bill — スプーンはし(嘴)
- Broad-bill — ハシビロ(広嘴)
- Shovel-bill — シャベルはし(嘴)

ハシビロガモにご対面の節には、こんなことを頭に描きながら観察すれば、バードウォッチングの楽しみも、より一層大きくなるでしょう。

埼玉県野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇8月11日、戸田市道満貯水池で夏羽1羽(海老原美夫)。

ヨシゴイ ◇7月10日、川越市の伊佐沼で♀1羽。中州のアシの間から顔をだし、目の前を通過するカルガモ親子8羽の行列をつくづく眺めた後、フナを1匹捕まえて食事をしていました(中司隆由)。◇8月24日熊谷市の別府沼で♀1羽。飛び上がった時の羽の黒い模様のはっきりとして、すごくきれいだった(中島章二)。

オオヨシゴイ ◇8月7日、川越市の伊佐沼の中州のアシの茂みから♀1羽。当日はゴイサギの幼鳥かと見逃していたのですが、あとで写真を現像してみてもビックリという訳でした(中司隆由)。

アマサギ ◇8月6日、戸田市道満貯水池で1羽(二村英克)。

チュウサギ ◇7月10日、川越市の伊佐沼で1羽(中司隆由)。

オナガガモ ◇6月29日、志木市の新河岸川いろは橋-富士下橋間で残留♂2羽(中司隆由)。

ホシハジロ ◇8月11日、戸田市道満貯水池で1羽(海老原美夫)。

キンクロハジロ ◇8月11日、戸田市道満貯水池で1羽(海老原美夫)。

オオタカ ◇7月30日、戸田市道満貯水池のテトラポットの上で若鳥1羽。変な声で鳴いていたが、鳴き声を聞いたのは初めて(二村英克)。

ツミ(繁殖) ◇7月10日午後1時30分、鴻巣市で上空をツミが小鳥らしきものを捕まえて飛ぶ。近くのイチョウの大木に入る。午後3時頃に2羽並んでとまっているのを発見。2羽の内1羽は幼鳥でした。7月11日、下から10メートル程の所にある巣を見つける。中で1羽が、さかんに食事中でした(逸見 嶮)。7月12日、ヒナ4羽を確認する(内藤義雄)。

サシバ ◇9月4日、秩父市美の山で1羽(山岸昭治)。

チュウヒ ◇8月20日、戸田市道満で♀1羽(高橋達也)。

ヒクイナ ◇7月5日、富士見市の柳瀬川で1羽。当地では数年前に姿を消したと思われていたが、今年は復活か(中村 治)。

バン ◇7月10日、川越市の伊佐沼で親と幼鳥2羽。幼鳥の額は、もうずいぶん赤くなっていました(中司隆由)。

タマシギ ◇8月28日、川越市船渡で♂♀各1羽、幼鳥2羽(山部直喜)。

ムナグロ ◇8月31日、熊谷市北部の休耕田で28羽。胸の黒色が鮮やかなのが10羽いました(中島章二)。

ケリ ◇9月1日、3日午前6時頃、大宮市の芝川、東武野田線鉄橋から100メートル位上流で1羽。コチドリ、イソシギ、バンなどと採餌していた(諸徳寺四郎)。◇9月3日、熊谷市北部の休耕田で1羽。初めてみる美しさに36度以上の暑さも何のその、しばらく眺めていたが、いずこか飛んで行方不明。ああ残念。でもくちばしの黄色と黄色い長い脚が印象的でした(中島章二)。

ヒバリシギ ◇8月18日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷グランド脇の草地で1羽。当地初記録(高橋達也)。

アオアシシギ ◇7月25日、戸田市道満貯水池で6羽(二村英克)。◇8月28日夜、入間市宮寺の狭山丘陵であの独特の声が夜空から降ってきた(渡辺 敦)。

キョウジョシギ ◇8月6日、戸田市道満貯水池で1羽(二村英克)。

クサシギ ◇8月10日、志木市の柳瀬川で1羽(中村 治)。

アカエリヒレアシシギ ◇8月2日、秩父市浦山、秩父~名栗林道で車と衝突して死んだと思われるオスの死体発見。死後まだわずかの個体で、頭側部に損傷あり(青山絃一)。

ユリカモメ ◇8月11日、戸田市道満貯水池で1羽(海老原美夫)。

ウミネコ ◇8月11日、戸田市道満貯水池で1羽(海老原美夫)。

カッコウ ◇7月26日、朝霞市仲町1丁目目電話線に平行にとまる。そのためメスと思

われる(田中富夫)。

ツツドリ ◇7月17日午前4時、大宮市堀崎町の自宅で鳴き声を聞くが、どうしてこんな所で?(藤原寛治)。

ヤマセミ ◇9月7日、秩父市の羊山公園の姿の池で2羽乱舞(山岸昭治)。

カワセミ ◇8月18日、吉見町の吉見総合運動公園の池の端から1羽飛び立つ(長島岩雄)。

ヤツガシラ ◇8月6日～、大宮市本郷町で1羽。継続観察(菅原俊也)。9月10日、大宮市砂団地(本郷町の現場から北東約1キロの地点)でヤツガシラが死んで空から降ってきた(岡)。

コゲラ ◇7月5日、志木市の柳瀬川で2羽1羽は電柱のてっぺんの金属板をしきりにつつく。しかし、さすがに連続技(ドラミング)はできないようだ(中村 治)。

セグロセキレイ ◇7月13日、桶川市若宮の自宅南側の小公園でヒナを連れた親子が芝生で餌をあさっていた(立岩恒久)。

イソヒヨドリ ◇7月2日午前10時30分、秩父市大野原セメント工場の煙突脇の建てやで♂1羽(山口輝雄)。

クロツグミ ◇8月23日、三峰山で♀1羽(山岸昭治)。

コヨシキリ ◇7月12日、富士見市の柳瀬川左岸のアシ原で数羽のオオヨシキリに混じって眉秀でたる1羽(中司隆由)。

センダイムシクイ ◇8月26日、31日、秩父市美の山公園で1羽(山岸昭治)。

キクイタダキ ◇8月23日、三峰山で1羽(山岸昭治)。

キビタキ ◇8月31日、秩父市美の山公園で1羽(山岸昭治)。

オオルリ ◇8月23日、三峰山で若鳥4羽



8月18日 大宮市本郷町 (海老原美夫)

(山岸昭治)。◇8月31日、秩父市美の山公園で若鳥1羽(山岸昭治)。

エゾビタキ ◇8月26日、秩父市美の山公園で1羽(山岸昭治)。

コサメビタキ ◇8月23日、三峰山で1羽(山岸昭治)。

サンコウチョウ ◇7月4日、児玉町の間瀬湖周辺で尾の短い固体1羽。「月日星ホイホイホイ」とさえずる(田口浩司)。

ヤマガラ ◇8月23日、三峰山で1羽(山岸昭治)。◇8月28日、浦和市上野田で1羽(藤原寛治)。

シジュウカラ ◇7月12日、午前6時40分、桶川市若宮の自宅裏の桜の木でヒナ連れ18羽の一群が毛虫を捕りながら移動して行った(立岩恒久)。

メジロ ◇7月7日、桶川市若宮の自宅付近のクスノキでヒナ4羽が横1列に目白押し「チリチリチリ……」と鳴きながら時々親から餌をもらっていた(立岩恒久)。

ウソ ◇8月30日、三峰山で若鳥2羽(山岸昭治)。

イカル ◇9月3日、秩父市美の山で約50羽(山岸昭治)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

飛 翔 (ダイサギ)

それは暴風の日。小鳥たちも風に飛ばされてほとんど姿を現さず、やはりこんな日はダメだったと、ひとりトボトボ足を運ぶ。

ふと目の前に、かわいそうな私に対するサービスのためか、1羽のダイサギが、勇ましく

風に立ち向かっていた。“やったあ”

待つこと約30秒。飛んだ!!

今日は慰めてくれて、本当にどうもありがとうございました。

内田博子(小平市)

行事あんない



栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月7日（土）

集合：午前10時30分 赤沼バス停

交通：東武日光線快速（浅草7：10、北千住7：20、春日部7：42、東武動物公園7：47）に乗車、東武日光駅より湯元温泉行きバス9：21発に乗車。切符は日光フリーパスが便利。

解散：現地にて午後3時ごろ。

担当：中島、松井、福井、草間

見どころ：枯れ野を駆けめぐる小鳥たち。晩秋の戦場が原で、カラヤキツツキの仲間、キバシリ、ベニマシコなどを探しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月8日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：06発または寄居9：03発に乗車。

担当：菱沼（一）、森本、林滋、関口、菱沼（洋）、斉藤、塚本、中島（章）、川島

見どころ：冬鳥たち、無事に到着。ツグミ、カシラダカ、シメ。数々の困難を乗り越えてきた小さな勇者たちに拍手。

川口市・差間探鳥会

期日：11月8日（日）

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

解散：大崎公園にて。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

担当：手塚、伊藤、田口

見どころ：紅葉に彩られた斜面林。そして野辺には早くも冬の気配。渡ってきた冬鳥やチョウゲンボウを求めて、一面の枯れ野をさまよい歩く。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口、馬場、岡部

見どころ：ジョウビタキ君と再会。「ご無沙汰しました。今シーズンも、よろしく」と、ピョコンとお辞儀するかわいい姿をお楽しみに。

桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前8時45分 JR高崎線桶川駅西口

担当：立岩、榎本、吉原、桜庭、新堂

見どころ：見応え充分、タゲリの群れ。秋空にはためく黒い翼、風になびく冠羽。タゲリの魅力に酔いしれて下さい。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月22日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

担当：長谷部、三田、石井、佐久間、柳原、小野、山本、中村（祐）

見どころ：カモや身近な鳥たちを見にきませんか。これから本格的にバードウォッチングを始めようとしている方には絶好の季節。一人でもご心配なく。リーダーが親切にお手伝い致します。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：11月22日（日）
集合：午前10時 秩父鉄道長瀬駅前
担当：林滋、町田、菱沼、小淵
見どころ：カワセミ、オシドリでお馴染みの長瀬。この季節は、紅葉でますます華やかになります。秋の一日、たっぷりと目の保養を。

新潟探鳥会（要予約）

期日：11月22日（日）～23日（月・祝）
定員に達しましたので締め切りました。たくさんのご応募ありがとうございました。参加される方には詳しい案内書を送付致しました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月28日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：11月28日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月29日（日）
集合：午前8時45分 JR東北線蓮田駅東口バス停前
解散：午前11時30分頃。
担当：中島、馬場、林（慎）、浅田、小林（恒）、入山、山岡、五十嵐
見どころ：ツグミ、タゲリ、ジョウビタキ、そして心なごむ秋の農村風景。のんびり歩けば、遠い故郷が思い出されます。

12月6日（日） 阪東大橋探鳥会
越生探鳥会
石戸宿定例探鳥会
12月12日（土） 見沼ヘルシーロード探鳥会

12月13日（日） 狭山湖探鳥会
大麻生定例探鳥会
12月20日（日） 武蔵丘陵森林公園探鳥会
三室地区定例探鳥会
12月23日（水・祝）年末講演会

伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：平成5年1月9日（土）～10日（日）
定員：20名（先着順、県支部会員優先）
費用：31,000円程度（交通、宿泊、弁当、保険その他）。
交通：新幹線及び在来線利用。
申し込み：通常葉書に住所・氏名・電話番号・性別を明記の上、中島康夫

までお申し込み下さい。参加が決まった方には詳しい案内書を送付致します。

担当：中島康夫、松井昭吾
見どころ：一万羽のガンが飛び交う伊豆沼、蕪栗沼を歩きます。オジロワシやハヤブサにも会えるでしょう。
注意：二日間とも約5kmづつ歩きます。足に自信のある方向きです。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：平成5年1月30日（土）～31日（日）
定員：35名程度（先着順、県支部会員優先）
費用：19,000円程度（交通費・宿泊・保険その他）。

交通：貸切りバス利用。
申し込み：往復葉書に住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記の上、榎本秀和までお申し込み下さい。

担当：榎本、北川、内藤、岡安
見どころ：日本一のカモメの名所へ、ときめきのバスツアー。埼玉ではなかなか見られない海鳥を思いきり見た後は、鳥談義に花を咲かせましょう。
注意：防寒に充分留意の上お出かけ下さい。

*一泊探鳥会の申し込み方法は、担当者によって若干異なりますので（例えば往復葉書か通常葉書か）、充分ご注意下さい。

行事報告

■5月9日(土) 神奈川県 多摩川河口

人 8人 **天気** 雨後曇 **鳥** カワウ アオサギ カルガモ キンクロハジロ スズガモ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ キアシシギ ソリハシギ ユリカモメ カモメ セグロカモメ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ スズメ ムクドリ オナガカラスSP (28種) 悪天候の中、探鳥会を開催。どんな雨降りでも、必ずと言っていいほど参加者が居る。それも一人二人ではない！ということに毎回頭が下がる思い。今回は、大田区在住のベテラン赤池氏が参加してください、もうどんな鳥が出てまいじょうぶサ！と出かけたが……。雨の干潟を歩き回るのは、鳥たちもあまり好きではないらしい。それでも渡りの季節ならではのシギ類が数種見られた。今回は、潮の具合に合わせて午後の探鳥会だった。参加者の一人のS氏、帰りの電車の中で雨衣を脱いだら、背広姿もりりしいジャパニーズ・ビジネスマンに変身。お勤めの帰りによって下さった。T嬢も午前中に用事を済ませてからの参加で、清楚なスカート姿。彼らの姿を見て思った。普通の服装で気軽に行ける、午後からの(夏ならアフター5でも)探鳥会があってもいいんじゃないかな……。 “仕事が忙しくても行ける探鳥会”について、普及部の方、ご検討を……。 (小林みどり)

■7月4日(土) 栃木県 奥日光

人 55人 **天気** 晴 **鳥** マガモ スズガモ キジバト カッコウ ホトトギス アマツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ モズ ミソサザイ コマドリ ノビタキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシ

クイ キクイタダキ キビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジウカラ ゴジウカラ ホオジロ ホオアカ アオジ イカル ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス (36種) 戦場ヶ原はワタスゲやツツジの花が咲きそろい、灌木の先にはノビタキやホオアカが止まり、素晴らしい眺めでした。ニュウナイスズメの親が巣穴に餌を運ぶところも見られました。大勢の参加者でしたが、皆さん十分に楽しめた様子でした。
(中島康夫)

■8月15日(土) 神奈川県 多摩川河口

人 36人 **天気** 晴 **鳥** カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ バン ムナグロ ダイゼン シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシギ オオソリハシギ ユリカモメ ウミネコ コアジサシ アジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ セッカ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 探鳥会開始直後にオオメダイチドリ登場。前回に引き続き参加して下さった大田区の赤池氏が発見。ほぼ全員がじっくりと観察できた。でも、識別は難しい。見れば見るほどウン??担当リーダーは、“ホラ、メダイチドリと違うのは、嘴、脚と……”などと分かったようなことを言いはするものの、心の中では“この鳥、この次にどこかで会っても絶対分らないだろうなー、絶対メダイチドリだ！”と思っちゃうよなー”リーダーと言っても、そんなもんですよ。ところで今日はお盆。帰郷や夏休みで参加者は少ないだろうという甘い予想は裏切られた。用意していたチェックリストが足りなくなり、参加者の中の役員・リーダー

に配った分を回収して、なんとか間に合わせた。役員・リーダーの皆様、ご迷惑をおかけしました。今日はおまけに終戦記念日。渡り鳥の集う平和な干潟を眺めつつ思う。人間同士の戦争は言うまでもなく、人間が自然に対して仕掛けている侵略戦争も、そろそろ終戦にしたいもの……。 (小林みどり)

■ 8月16日(日) 浦和市 三室地区

人 37人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コジュケイ バン キアシシギ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 先月に100回目の記念探鳥会を開き、今月の探鳥会より200回目の探鳥会を目指して頑張る三室の鳥仲間たちです。郷土博物館の暖かい支援の下で、なかよく“鳥よりも人の輪を大切に”しています。そうした意味で、7月の探鳥会で聴覚障害の方の参加があって、手話等で交流しましたが、今月は、視覚障害の方の参加があり、リーダーの適切な案内で無事探鳥会を終了したことをうれしく思っています。 (楠見邦博)

■ 8月22日(土) 蓮田市民祭で普及活動

ボランティア 海老原教子、草間和子、小林恒雄、佐久間博文、中島康夫、馬場昇、林慎一、福井恒人、藤原寛治 (9人) 今年で3回目を迎えた市民まつりに今年も参加しました。テントの中で黒浜沼周辺で見られる野鳥の写真展と野鳥グッズ等の販売を行いました。たくさんの方々が訪れ、熱心に写真に見入り、案内の会員の方にも色々質問をされました。暑い中、お手伝い下さった会員の皆様ありがとうございました。 (中島康夫)

■ 8月30日(日) 初級リーダー研修会

講師 矢沢潔 (本部企画事業部企画室)

新規研修生 阿久沢キクエ、池永重子、小野沢満、川島正治、神場真文、工藤洋三、齊藤比佐実、桜庭勇、篠原五男、篠原東彦、新堂克浩、塚本典子、中島章二、中村祐子、山岡

百合子、山本真喜子 (16人)

役員リーダー 27人

オブザーバー 堀口忠男、金谷道行 (共に群馬県支部幹事)

■ 9月6日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

人 51人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ウズラシギ ハマシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ キリアイ ミユビシギ オバシギ オオソリハシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ セッカ スズメ ムクドリ (35種) シギ・チドリの秋の渡りの最盛期! 埼玉では数少ない干潟の鳥をみんなでゆっくり観賞した。 (杉本秀樹)

■ 9月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 40人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ タカSP チョウゲンボウ コジュケイ イカルチドリ イソシギ シギSP キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ エゾビタキ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 雨続きの去年に比べて、日照り続きの今年は、河原も干上がって草が生えてしまった。さすがのススキもぐったりして、生気を失っている。しかし、時折ほおをなでる風には、秋の気配が感じられた。土手の上からオオタカ、チョウゲンボウ、途中の林ではエゾビタキを全員で観察した。(ところでN君、最近大麻生に姿を見せませんね…。) 明戸堰では、見慣れないシギが1羽、皆であれこれ相談したが結局わからずじまい。どこか干潟に行って、もっとシギ・チの勉強をしなければと思った。 (菱沼一充)

連絡帳

ネチャーフォトコンテスト1992 入選作品

9月20日(日)の役員会で、出品者名を伏せた作品本意採点制の審査の結果、次のとおりになりました。

オナガガモ(榎本秀和)、モズ・アゲハ・イソシギ(林滋)、キンクロハジロ(中村治)、クマガイソウ・ヒトリシズカ(立岩恒久)、キジ・ムナグロ・キアシシギ・ダイサギ・コサギ・ツミ・セイタカシギ・ブッポウソウ・キセキレイ・セグロセキレイ・オオヨシキリ(海老原美夫)、ヒバリ・コミミズク(野川一臣)、ダイサギ・コミミズク・ホオジロ(内田博子)、エノキ(渡辺敦)、アマサギ(町田好一郎)、バン・ショウジョウトンボ・ノビタキ・ウソ・ツグミ(登坂久雄)

以上30点。応募作品は73点で、過去最多でした。表紙写真などでご覧ください。

『県北見て歩き』出版計画

県内の『見て歩き』シリーズを多数刊行している出版社、幹書房から、県北版の執筆依頼が当支部にありました。来年6月の発売を目指して、県北地区の役員リーダーを中心に協力チームが結成されました。

トラバサミ事件

10月6日付け東京新聞に、「越谷市の養魚池でトラバサミがしかけられ、コサギが死んでいる」と、無残な状況がカラー写真で大きく報道されました。早速埼玉県東部環境管理事務所から係員2名が急行して現地調査。違法であることを知らなかったとのことで刑事事件としての立件は見合わせましたが、トラバサミを押収、厳重に指導しました。

「埼玉野鳥の会」について

「埼玉野鳥の会」という団体が結成されたとの新聞報道があり、支部事務局に問い合わせもありましたが、この団体は、日本野鳥の会とはまったく関係がありません。

文化祭にパネル貸出など

浦和市立岸中学校には写真パネル、杉戸町立杉戸中学校にはビデオテープを貸出しました。また、都内千代田区の共立女子短期大学からは、生活環境論の授業の一部として探鳥会に参加させたいと連絡がありましたので、『しらこぼと』を送りました。

11月の土曜日当番(2時～6時)

7日 伊藤芳晴 菱沼一充
14日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
21日 内藤義雄 馬場昇
28日 袋づめの会(1時から)

会員数は

10月1日現在 1,980人です

活動報告

9月5日 今井元支部長葬儀に参列(松井)。
9月5～6日 理事会に出席(海老原)。
9月12日 研究部会議、編集会議。
9月18日 幹書房出版計画打ち合わせ。
9月20日 役員会議(司会・馬場昇、バードウォッチングウィーク展、『見て歩き』、コンテスト審査など)。
9月29日 理事会部会に出席(海老原)。
9月30日 アイリスメガネ本社でパネル展後援について依頼と打ち合わせ。

編集後記

今月号の表紙を飾ったダイサギ、撮影者は内田博子さん。女性の作品初登場です。野鳥の会には女性が少ないとよく言われますが、それでも十数年前に較べたら増えました。若かりし頃、プロミナかついで歩き回っていたら、ある中年男性に「そういうものは男に持たせて見せてもらうもんだ」と言われました。そういう偏見って結構あるんですね。女性諸君、オトコなぞに頼らず、ガンガンいい鳥見て、いい写真とってください。(みどり)

『しらこぼと』1992年11月号(第102号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)